

1 文(文章)で解答する設問の答案については、次のA項の加点要素の合計から次のB項・C項の減点要素の合計を引いた得点をその設問の得点とします。ただし最低点は0点としマイナスの得点はつけません。

A項

- a 以下の採点基準では、模範解答をいくつかの要素に分割し加点要素とします。答案中にその加点要素に相当する部分があれば、その加点要素に配点された得点を与えます。答案中にその加点要素は、その加点要素に配点された得点か0点で採点することを原則とします。たとえば5点配点された加点要素であれば5点か0点で採点することを原則とします。ただし、その加点要素中の部分点を認める場合もあります。その場合それぞれの採点基準の中に明記されています。
- c ある要素に加点するかが、他の要素と無関係に決まる場合と、他の要素との関係で決まる場合があります。前者の場合は、その要素を単独採点(独立採点)すると言いその旨必ず明記されています。後者の場合は、他の要素との関係について以下の採点基準で具体的に指示されています。

B項

- a 答案中に大きな誤読と判定される内容(語句)などがある場合は、その内容(語句)を減点要素として示されている場合もあります。
- b 加点要素でも減点要素でもない部分もあります。その部分は加点も減点もしません。
- C項 次に該当するものは、答案の形式上の不備として、一箇所につき1点の減点要素とします。
 - a 誤字。漢字などの文字の明らかな誤りは誤字とします。
 - b 脱字。
 - c 文末の句点の脱落。
 - * 字数指定のない場合、句点の脱落は誤字とし1点の減点とします。
 - d その他不適切と判断せざるをえない箇所。
 - e 不適切な文末処理。設問の問い方に対応していない形で答案の文末を結んでいない場合は、適切な文末処理が行われていないと見て形式上の不備による減点要素とします。たとえば「…とはどういうことか?」という問いに体言で結んでいないものなどは適切な文末処理が行われていないと見て形式上の不備とします。また、理由が問われているのに、「から」「ので」などで結んでいないものなども適切な文末処理が行われていないと見て形式上の不備と見ます。
 - * ただし、「ことである」などの表現も「こと」などで結んでいるものと同様適切な文末処理が行われていると見ます。また、「からである。」などの表現も「から」などで結んでいるものと同様適切な文末処理が行われていると見ます。また文末の表現を問わない場合もありますが、その場合はその都度明記されています。

2

日本語の表現として不適切なものは程度に応じて減点します。

3

次の各項に該当するものは、部分点の要素があっても、その設問の得点を0点とします。

- a 答案が解答欄の欄外にはみ出しているもの。

- b 一行の解答欄に二行以上書いた場合もその設問の得点を0点とします。
- c 字数指定のある設問で、字数をオーバーしたもの。
- d 答案の文章が最後まで完結していないもの。

4 古文あるいは漢文の訳を記述する設問の場合も以上に準じますが、文末の句点や文末の処理あるいは答案の完結にこだわらなくともよい場合はその都度明記されています。

2020 第二回 東北大本番レベル模試 第一問

大問一 問(一)

基準 配点： 1点×5

■模範解答 ※解答例通り(漢字書き取り問題)

- (1) 射(ている) (2) 企(て) (3) 盾 (4) 格言 (5) 欠陥

大問一 問(一)

■形式上の不備

- ・文末表現：要素B参照／理由説明の結び「くから」になっている場合は、要素B不可
- ・句点の扱い：1点減点

基準 配点： 12点

■模範解答 ※各要素同意表現可。ニュアンスが正しければ許容

A

ある対象への感覚をまとまった形を持つ表象像としてとらえる構想力と、

B

その形に一定の秩序を把握する悟性。

■採点方法：各要素単独採点

■字数：五十字以内 二十四字以下のもは全体不可(0点)

■要素A ある対象への感覚をまとまった形を持つ表象像としてとらえる構想力と：6点

- ・傍線部直前の「この」の指示内容を説明していないものは、要素A加点数なし
- ・ぼんやりした感覚を表象化することの説明がない場合は2点減点

■要素B その形に一定の秩序を把握する悟性：6点

- ・傍線部直前の「この」の指示内容を説明していないものは、要素B加点数なし

要素Aの「形」であることが明らかでない場合は2点減点

大問一 問(三)

形式上の不備

- ・文末表現：要素B参照／理由説明の結び「くから」になっている場合は、要素B不可
- ・句点の扱い：1点減点

基準 配点：12点

■模範解答 ※各要素同意表現可。ニュアンスが正しければ許容

A

自然に生起する感情が

B

美的選好には影響を与えているということ。

■採点方法：各要素単独採点

■字数：三十字以内 十四字以下のもは全体不可(0点)

■要素A 自然に生起する感情が：6点

- ・「自然化」とは「その人の性格から自然に生じた感情」であることの説明がされていないものは、要素A加点数なし

「自然主義」をそのまま書くのは不可。今回の場合に合わせて適切な自然主義の説明をしていないものは0点

■要素B 美的選好には影響を与えているかどうか：6点

- ・「美学」とは「その人が何を好むかという美的選好」のことであるという説明がされていないものは、要素B加点数なし

大問一 問(四)

形式上の不備

- ・文末表現：要素E参照／理由説明の結び「〜から」になっている場合は、要素E不可
- ・句点の扱い：1点減点

基準 配点：17点

■模範解答 ※各要素同意表現可。ニュアンスが正しければ許容

A

プリントは最新の研究成果に基づく論を立てたが、

B

自分が主観的によいとされた感情は、

C

他者と共有されるべきものとして

D

他者への説得が必要であるという点で、

E

カントの論と重なっているということ。

■採点方法：各要素単独採点

■字数：九十字以内 四十四字以下のもは全体不可（0点）

■要素A プリントは最新の研究成果に基づく論を立てたが：4点

・プリントの論が最新のものであることの説明がされていないものは、要素A加点なし

■要素B 自分が主観的によいとされた感情は：3点

・プリントとカントに共通する点（主観的な感情）を説明していないものは、要素B加点なし

し（「自分の肯定的感情」なども○）

■要素C 他者と共有されるべきものとして：3点

・プリントとカントに共通する点（他者との共有）を説明していないものは、要素B加点なし

■要素D 他者への説得が必要であるという点で：3点

・プリントとカントに共通する点（説得の必要性）を説明していないものは、要素B加点なし

し（他者への説得」の部分は「正当化」でも○）

■要素E カントの論と重なっているという点…4点

・プリンツの論がカントの論と同じようなものであることを説明していないものは、要素E加
点なし

大問一 問五

形式上の不備

- ・文末表現…要素C参照／内容説明の結び「〜こと」になっている場合は、要素C不可
- ・句点の扱い…1点減点

基準 配点…14点

■模範解答 ※各要素同意表現可。ニュアンスが正しければ許容

A

主観的な肯定的感情を他者に説得するには、

B

論拠としての人間に共通の美的ルールが必要だが、

C

すべてに共通する美的ルールが存在するわけではないから。

■採点方法…各要素単独採点

■字数…七十字以内 三十四字以下のもは全体不可(0点)

■要素A 主観的な肯定的感情を他者に説得するには…4点

・主観的な肯定的感情は他者に説得する必要があることを説明していないものは、要素A加
点なし

■要素B 論拠としての人間に共通の美的ルールが必要だが…4点

・要素Aの説得のためには人間に共通するルールが必要になることの説明がされていないもの
は、要素B加点なし

- 要素C すべてに共通する美的ルールが存在するわけではないから：6点
- ・要素Bの共通ルールはないということの説明がないものは、要素C加点数なし

2020 第二回 東北大本番レベル模試 第二問

大問二 問(一)

基準 配点： 2点×3

■模範解答 ※解答例通り(辞書の意味に当てはまればよい)

- (1) うきうきする。
陽気になる。 等
- (2) 気分が高まった様子。
気分が高まること。 等
- (3) 息をとめて。
息をせず、じっとして。 等

大問二 問(二)

■形式上の不備

- ・文末表現：要素C参照
- ・句点の扱い：1点減点

基準 配点： 12点

■模範解答 ※各要素同意表現可。ニュアンスが正しければ許容

A

飛行機に詳しいのは、

B

航空写真を撮るカメラマンである父の仕事を誇りに思うことになっている

C

ということを伝えたかったから。

■採点方法…各要素単独採点

■字数…六十字以内 二十九字以下のものは全体不可(0点)

■要素A 飛行機に詳しいのは…4点

・「さらなる追い打ち」の前段階にある、クラスメイトへの「打撃」にあたる内容を説明していないものは、要素A加点数なし

■要素B 航空写真を撮るカメラマンである父の仕事を誇りに思うことによっている…4点

・「さらなる追い打ち」の内容を説明していないものは、要素B加点数なし
父の仕事内容が書いていて2点、「父の仕事を誇りに思う」が書いていて2点

■要素C ということ传达了から…4点

・傍線部の行動は、要素Bを「伝える」ための行動であることを説明していないものは、要素C加点数なし

大問二 問三

■形式上の不備

- ・文末表現…要素C参照
- ・句点の扱い…1点減点

基準 配点…12点

■模範解答 ※各要素同意表現可。ニュアンスが正しければ許容

A

事故で自由を奪われた父にとって

B

この日が特別であるということを、

C

少年に話すことのためらいを感じたから。

■採点方法…各要素単独採点

■字数…五十字以内 二十四字以下のもは全体不可(0点)

■要素A 事故で自由を奪われた父にとって…4点

・要素Cの「ためらい」を生じさせる具体的な内容(事故にあったこと)を説明していないものは、要素A加点数なし。説明が曖昧である場合には△2点

■要素B この日が特別であるということ…4点

・要素Cの「ためらい」を生じさせる具体的な内容(仕事に復帰すること)を説明していないものは、要素B加点数なし。「特別」という語がなくても、特別であることの具体的な内容が書かれているものも許容。説明が曖昧である場合には△2点

■要素C 少年に話すことのためらいを感じたから…4点

・要素AとBで指摘した内容が込み入った事情であるため、それを話すことのためらいを感じていることの説明がないものは、要素C加点数なし
「父の事故」・「事故後の初仕事」という具体的な内容を明示せず「複雑な家庭の事情」などと両者を抽象化してまとめて書いている場合は、要素AとBを合わせて△4点を与える

大問二 問(四)

■形式上の不備

- ・文末表現…要素C参照
- ・句点の扱い…1点減点

基準 配点… 12点

模範解答 ※各要素同意表現可。ニュアンスが正しければ許容

A

カメラマンとしての仕事を

B

父が続けられるかどうか

C

不安にかられているという心情。

■採点方法…各要素単独採点

■字数…四十字以内 十九字以下のものは全体不可(0点)

■要素A カメラマンとしての仕事を…4点

・「怖さ」を感じる理由(友人が誇りに感じている父の仕事に關すること)を説明していないものは、要素A加点数なし。(「カメラマンとしての」はなくても許容)

■要素B 父が続けられるかどうか…4点

・「怖さ」を感じる理由(要素Aで確認した、仕事が続けられないかもしれないこと)を説明していないものは、要素B加点数なし。(「復帰が難しい」としても可)

■要素C 不安にかられているという心情…4点

・「怖さ」を軸にした心情が説明されていないものは、要素C加点数なし

大問二 問五

■形式上の不備

- ・文末表現…要素E参照
- ・句点の扱い…1点減点

基準 配点… 18点

■模範解答 ※各要素同意表現可。ニュアンスが正しければ許容

A

父が戻ってこないという自分が置かれた境遇を

B

切なく感じつつも、

C

友人とその父の置かれた状況も

D

またつらいものだと感じ、

E

友人を慮るといふ心情。

■採点方法…各要素単独採点

■字数…七十字以内 三十四字以下のものは全体不可(0点)

■要素A 父が戻ってこないという自分が置かれた境遇を…3点

- ・少年の境遇を説明していないものは、要素A加点数なし
- 具体的な境遇の説明がなければ0点

■要素B 切なく感じつつも…4点

- ・要素Aの境遇に対する少年の心情を説明していないものは、要素B加点数なし
- 「寂しい」なども可

■要素C 友人とその父の置かれた状況も…3点

- ・友人の置かれた境遇を説明していないものは、要素C加点数なし

■要素D またつらいものだと感じ…4点

- ・要素Dから推察される友人の心情を説明していないものは、要素D加点数なし

■要素E 友人を慮るといふ心情…4点

- ・「口に出さなかった」理由を説明していないものは、要素E加点数なし
- 「友人の気持ちを察する」などの表現も可

2020 第二回 東北大本番レベル模試 第二問

問(一) 傍線の箇所(1)の語句の意味を文脈に即して記せ。

【3点】

〔該当傍線部〕 A2 詞敵（詞がたあ）B1もがな

〔模範解答〕

A2 話し相手 B1 がいて欲しいものだなあ

〔ポイント〕

A 【2点】 詞敵 ↓ 話し相手

※「**ことばを交わす相手・話をする仲間**」などでもよい。

B 【1点】 もがな ↓ がいて欲しいものだなあ

※「**がいて欲しいなあ・がいたらなあ**」などでもよい。また「**なあ**」(詠嘆)がない「**がいて欲しい**」でもよいとする。

問(二) 傍線の箇所(2)の語句の意味を文脈に即して記せ。

【3点】

〔該当傍線部〕 A1 いぢ B2 給入。

〔模範解答〕

A1 さあ、 B2 いらっしゃい。

〔ポイント〕

A 【1点】 いぢ ↓ さあ、

※Bが0点の場合は得点できない。ただし、誤字等で0点になっている場合は得点できる。

B 【2点】 給入。 ↓ いらっしゃい。

※「**おいでください・来て下さい**」等でもよい。

※「**一緒にいらっしゃい・こちらにいらっしゃい**」等でもよい。

※尊敬の意がない「**来い**」は【1点】。

問(三) 傍線の箇所(3)の語句の意味を文脈に即して記せ。

【3点】

〔該当傍線部〕 A3 ゆくりなく

〔模範解答〕

A3 思いがけず

〔ポイント〕

A 【3点】 ゆくりなく ↓ 思いがけず

※「**思いもよらず・はからずも・意外にも・ひよんなことから・図らずも・不意に**」等でもよ

い。

※「思いがけない・意外だ」等、右の意はあるが、連用修飾のかたちになっていない場合は【2点】。

※「突然に・急に」等は【2点】。

※「突然だ・急だ」等、右の意はあるが、連用修飾のかたちになっていない場合は【1点】。

問(二) 傍線の箇所(ア)「…」とは、どのようなことについて、どのような気持ちだと言っているのか、四十五字以内で説明せよ。【7点】

〔該当傍線部〕 海月の骨に会ふ心地

〔模範解答〕

A3 死んだ姑に会えたことについて、B2 存在しないものに出会ふ、C2

不思議な気持ちだと言っている。(四十二字)

〔ポイント〕

A【3点】 死んだ姑に会えたことについて、

※BもCも0点の場合は得点できない。ただし、誤字等で0点になっている場合は得点できる。

※「死んだ」は「死んだはずの」等でもよい。「死んだ」の意がない「姑に会えたことについて」は【1点】。

※「姑」は「妻の母・義理の母」等でもよい。「姑」が「人・女」などとなっている場合は【2点】。

B【2点】 存在しないものに出会ふ、

※「くらの骨のよう」等の有無は不問。

※「存在しないもの」は「あるかわからないもの・あるはずのないもの」等でもよい。

※「出会い」は「見て」等でもよい。

※Cがない「存在しないものを見る気持ちだ」のような解答でもBの点は得られる。

C【2点】 不思議な気持ちだと言っている。

※「珍しく思う・まれなことに思う・めったにないことに思う」等でもよい。

※「不可解・わけが分からない」等は【1点】。

問(三) 傍線の箇所(イ)「…」とはどのようなことを指しているのか、四十文字以内で答えよ。

【7点】

「該当傍線部」 この事

「模範解答」 A3 両親や兄を「亡くし」、B2 祖先に関する言い伝えなどでC2 聞き漏らしていることが多いこと。(二十八文字)

「ポイント」

A【3点】 両親や兄を「亡くし」、

※「両親」は「親」でもよい。

※「両親(親)」「か」「兄」の片方しか書かれていない場合は【1点】。

※「早くに」「去年」「若くして」「四十歳で」等、両親や兄の死んだ状況の説明の有無は不問。

※「両親(親)や兄を亡くしたこと・両親(親)を「亡くしたこと・兄を「亡くしたこと」の意が読み取れれば、B・Cが0点でもAだけで得点できる。

B【2点】 祖先に関する言い伝えなどで

※Cが0点の場合は得点できない。ただし、誤字等で0点になっている場合は得点できる。

※「祖先に関すること」で・先祖の話で「の意があればよい。

C【2点】 聞き漏らしていることが多いこと。

※AもBも0点の場合は得点できない。ただし、誤字等で0点になっている場合は得点できる。

※「聞き漏らしていること」「は」「聞いていないこと」でもよい。

※「多い」の意がない場合は【1点】。

問(四) 傍線の箇所(ウ)「」について、「亡友」がこのようにされたのはなぜか、四十字以内で説明せよ。【7点】

「該当傍線部」 亡友をうつ伏しに踏みすえ

「模範解答」 A2 冥府の規律を破って、格別な理由もなく、C3 生きている人間をB2 冥

府へ(C) 連れて来たため。(二十八文字)

「ポイント」

A【2点】 冥府の規律を破って、格別な理由もなく

※「冥府の」は解答全体から読み取ればよい。

※「冥府の規律を破って」の意があれば、「格別な理由もなく」はなくてもよい。

※「冥府の規律を破ったから」の意が読み取れれば、B・Cが0点でもAだけで得点できる。

※「規律」は「決まり・制度」等でもよい。

※「冥府の規律を破って」の意がなく、「理由もなく」の意がある場合は【1点】。

B【2点】冥府へ

※Cが0点の場合は得点できない。ただし、誤字等で0点になっている場合は得点できる。

※「冥府」は「冥土・黄泉・地府・あの世・死者の世界」等でもよい。

C【3点】生きている人間をく連れて来たため。

※「人間」は「筆者」でもよい。

※主語「亡友が」の有無は不問。

※「生きている・生きた」が明らかでない場合は【1点】。

※「生きている自分を連れて来たため」は【1点】。「生きている・生きた」が明らかでない「自分を連れて来たため」は×。

問(五) 傍線の箇所(エ)「…」について、筆者はどのように考えているのか、七十字以内で説明せよ。 【10点】

「該当傍線部」 いかねれば、かかる夢を見たりけん

「模範解答」 A3兄を亡くした悲しみが癒えず、B2今は亡き親兄弟が慕わしく思われ、C

3自分自身老いを感じ始めて、D2死が意識されるようになったから、と考えている。(六十六字)

「ポイント」

※ 全体を締めくくる「から、と考えている」の有無は不問とする。

A【3点】兄を亡くした悲しみが癒えず、

※「兄を亡くして悲しい(嘆いた)」の意があればよい。

※「悲しい」がなく、「涙が乾かない」の意がある場合は【2点】。

※「昨年・昨年の八月に」・「年は改まったが」等の有無は不問。

B【2点】今は亡き親兄弟が慕わしく思われ、

※「亡き兄(兄弟・親兄弟・家族)が慕わしい」の意があればよい。

※「亡き」の意が解答全体から見ても不明な「兄(兄弟・親兄弟・家族)が慕わしい」等は【1点】。

※「兄(兄弟・親兄弟・家族)」が不明な「亡き人が慕わしい」は【1点】。

C【3点】自分自身老いを感じ始めて、

※「老いを感じた(意識した・嘆いた)」の意があればよい。

※「老いを感じた」の意がなく、「白髪が増えた」の意がある場合は【1点】。
「老いを感じた」の意がある場合は、「白髪が増えた」の意の有無は不問。
※「自分自身」の有無は不問。

D 【2点】 死が意識されるようになったから、と考えている。
※「死を感じた(意識した)」の意があればよい。

2020 第二回 東北大本番レベル模試 第四問

1 文(文章)で解答する設問の答案については、次のA項の加点要素の合計から次のB項・C項の減点要素の合計を引いた得点をその設問の得点とします。ただし最低点は0点としマイナスの得点はつけません。

A

- a 以下の採点基準では、模範解答をいくつかの要素に分割し加点要素とします。答案中にその加点要素に相当する部分があれば、その加点要素に配点された得点を与えます。
- b ある加点要素は、その加点要素に配点された得点が0点で採点することを原則とします。たとえば5点配点された加点要素であれば5点か0点で採点することを原則とします。ただし、その加点要素中の部分点を認める場合もあります。その場合それぞれの採点基準の中に明記されています。
- c ある要素に加点するかが、他の要素と無関係に決まる場合と、他の要素との関係で決まる場合があります。前者の場合は、その要素を単独採点(独立採点)すると言いその旨必ず明記されています。後者の場合は、他の要素との関係について以下の採点基準で具体的に指示されています。
- d 解答通りという条件がある場合はいかなる部分点も認めません。

B

- a 答案中に大きな誤読と判定される内容(語句)などがある場合は、その内容(語句)を減点要素として示されている場合もあります。
- b 加点要素でも減点要素でもない部分もあります。その部分は加点も減点もしません。

C

- a 誤字。漢字などの文字の明らかな誤りは誤字とします。
- b 脱字。
- c 文末の句点の脱落。
 - * 字数指定のない場合、句点の脱落は誤字とし1点の減点とします。
- d その他不適切と判断せざるをえない箇所。
- e 不適切な文末処理。設問の問い方に対応していない形で答案の文末を結んでいない場合は、適切な文末処理が行われていないと見て形式上の不備による減点要素とします。
たとえば「〜とはどういうことか」という問いに体言で結んでいないものなどは適切な文末

処理が行われていないと見て形式上の不備とします。

また、理由が問われているのに、「から」「ので」などで結んでいないものなども適切な文末処理が行われていないと見て形式上の不備と見ます。

*ただし、「ことである」などの表現も「こと」などで結んでいるものと同様適切な文末処理が行われていると見ます。また、「からである」「から」などで結んでいるものと同様適切な文末処理が行われていると見ます。

また文末の表現を問わない場合もありますが、その場合はその都度明記されています。

2 日本語の表現として不適切なものは程度に応じて減点します。

3 次の各項に該当するものは、部分点の要素があっても、その設問の得点を0点とします。

- a 答案が解答欄の欄外にはみ出しているもの。
- b 一行の解答欄に二行以上書いた場合もその設問の得点を0点とします。
- c 字数指定のある設問で、字数をオーバーしたもの。
- d 答案の文章が最後まで完結していないもの。

4 古文あるいは漢文の訳を記述する設問の場合も以上に準じますが、文末の句点や文末の処理あるいは答案の完結にこだわらなくともよい場合はその都度明記されています。

四 漢文 四十点

問一

各3点×2＝計6点

(1) わずかに／わづかに

(2) たまたま

▼現代仮名づかいでも、歴史的仮名づかいでも、どちらも可。

問二

各5点×2＝計10点

(a) ざいをかろんずること ／ ふんどのごとし

●以下のように、二分割して採点します。

① ざいをかろんずること

3点

② ふんどのごとし

2点

▼①↓②の順序になっていない場合は全体として加算なし。

▼句点「。」の有無は不問。

▼①・②ともに解答通り。

(b) ぞくじんと / せつせず

● 以下のように、二分割して採点します。

① ぞくじんと	3点
② せつせず / せつせず	2点

▼①→②の順序になっていない場合は全体として加点なし。

▼句点「。」の有無は不問。

▼現代仮名づかいでも、歴史的仮名づかいでも、どちらも可。

▼①は解答通り。

▼②は「まじわらず」「まじはらず」も可。

酒宴に興じて劉伯川は二人にそれぞれ詩を作って志を述べてみよと命じた。

【別解】酒宴が盛り上がったところで劉伯川は二人に命じて詩を作らせてその志を表

明させた。

●以下のように、三分割して採点します。

- | | |
|--------------------|----|
| ① 酒宴に興じて | 2点 |
| ② 劉伯川は二人に……命じた | 2点 |
| ③ それぞれ詩を作って志を述べてみよ | 2点 |

▼①・②・③の順序は不問。

▼①は「酒宴に興じて」「酒宴が盛り上がったところで」「酒が回ってきたところで」「酒に酔ったところで」「酔いが回ったところで」などと、「酒酣にして」が適切に訳されていれば可。なお「酣」を「たけなわ」と訳しているものは不可。

▼②は「劉伯川が（陳孟潔と楊士奇）の二人に命じた」ことを何らかの形で表現できていれば可。例えば、「命じた」と明言されていなくても、別解にあるとおり、「劉伯川が二人に詩を作らせてその志を表明させた」などとあれば、二人に命じたことが表現できているので可。

▼③は「陳孟潔と楊士奇が」それぞれ詩を作って志を表明する」、つまり二人がそれぞれ詩で**自分の志**（こころざし）（**将来の夢・希望・願い・目的・目標・目指すところ**）を表現することを何らかの形で表現できていれば可。

※例えば、「酒の席が盛り上がって、伯川は士奇と孟潔にそれぞれの将来の志についての詩を詠むように命じた」という答案は、①・②・③全て揃っているので、6点。

問四

8点

孟潔の詩の内容が、十年も努力して進士になれたのち、妓楼の女性たちの視線を集めるというものだったから。

●以下のように、二分割して採点します。

① 孟潔の詩の内容が……だったから。 2点
② 十年も努力して進士になれたのち、妓楼の女性たちの視線を集めるというもの 6点

▼①・②の順序は不問。

▼①は「陳孟潔の詩の内容」を根拠に「陳孟潔について評価した」という点が表現できていれば可。それだけで2点。

※誰について評価したのか明言されていなければ不可。

▼②は、(1)十年も苦しい努力を重ねてようやく進士に及第(合格)したのに、(2)その結果得られるものが、妓楼(朱塗りの高殿)の女性たちの視線に過ぎない、という二つの点に過不足なく触れていれば、6点。

※(1)が不完全であれば、3点

・例えば、「十年晝齋で苦勞して志は高かったが、妓楼の女性たちの視線を集めるというもの」という答案は、(1)が不完全なので、3点。また「十年晝齋で苦勞して志は晝雲白玉堂、春風を待っている」と、妓楼の女たちが緑衣の若者を見ているというもの」という答案は、詩の内容をそのまま引き写しただけで、理由の説明になっていないので、0点。「孟潔が十年間学問をして、官吏登用試験に合格したら、遊女たちに争って見てほしいと詠んだ」という答案は、(1)・(2)完備で、6点。

・要するに、(1)・(2)ともに表現できている ↓6点

不完全だが、「苦勞した結果が女性の視線を集めるだけ」という要点は抑えている ↓3点

何かは書いてあるが、「孟潔は風流な進士になる」と評価した理由になっていない ↓0点

寒気が骨身に沁みるのも厭わず梅に見とれているという詩の内容から、何かをなしとげるために必要な苦難の時期に士奇は耐えられると考えたから。

● 以下のように、三分割して採点します。

- | | |
|---------------------------------------|----|
| ① 詩の内容から | 2点 |
| ② 寒気が骨身に沁みるのも厭わず梅に見とれているという詩の内容 | 4点 |
| ③ 何かをなしとげるために必要な苦難の時期に士奇は耐えられると考えたから。 | 4点 |

▼ ①・②・③の順序は不問。

▼ ①は「楊士奇の詩の内容」を根拠に「楊士奇について評価した」という点が表現できていれば可。それだけで2点。

※ 誰について評価したのか明言されていなければ不可。

▼ ②は、寒気が骨身に沁みるのも厭わず梅に見とれている、という詩の内容を表現できていれば可。寒さに耐えて梅の花を見ろという要旨を抑えていればよい。

▼ ③は、(1)苦難の時期に楊士奇は耐えられるはずだ、(2)その苦難に耐えることで彼は大いに用いられるへ〓活躍できる、栄達できる、出世できる、何かを成し遂げられる」と考えた点に過不足なく触れていれば4点。(2)の要素はなく、「楊士奇は苦難に耐えられる人物だと考えた」だけの場合は2点。

※ 例えば、「士奇が、寒さが骨身にしみても梅の花に見とれているという詩を詠んだことから、苦難に耐える我慢強さがあると伯川は思ったため」という答えは、①2点+②4点+③(1)2点〓8点。「寒さが骨を侵しても梅の花を見ているという詩から、楊士奇は用いられると考えたから」という答えは、①2点+②4点+③0点〓6点。「楊士奇の詩は試験に触れてはいないが、雪、梅という比喻により試験の厳しさに耐え成功することが読み取れたから」という答えの場合、①2点+②0点+③0点(正しくは「苦難に耐えて試験に合格する」ではなく「苦難に耐えて栄達を遂げる」)〓2点。